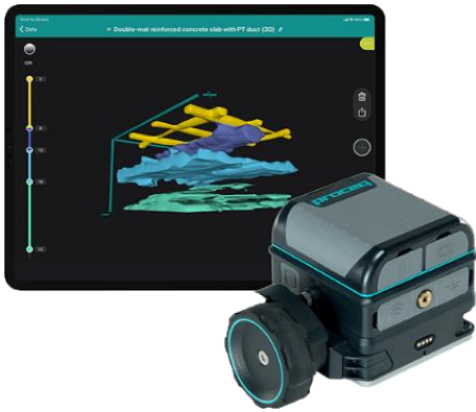


技術概要書（様式）

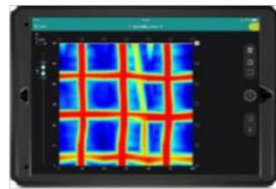
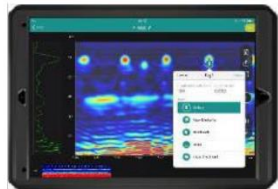
※別紙2

出展技術の分類	安全・防災 インフラDX 維持管理 環境 コスト 品質 （該当分類に○を付記）
技術名称	クラウド型鉄筋探査非破壊試験装置GP8800 担当部署 EG 通信計測部
NETIS登録番号	QS-210015-A 担当者 林梨香子
社名等	株式会社アクティオ 電話番号 080-6177-0645
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>従来Bスキャンの波形データを読み取り鉄筋の位置、かぶりを読み取っていたが現場や配筋状態によっては波形を読み取ることが難しく慣れた方でないとは波形を上手く読み取れず素人では難しいものであった為、簡単に2D、3Dにすることにより誰でもビジュアル的にデータを読み取ることが出来るようにし誰でも操作出来るよう操作性が簡単にする必要があった。 また一般的なインパルスレーダでは、見たいかぶりによって機種を選択する必要があるのでSFCWを採用することにより浅いかぶりから深いかぶりまでを1つのレーダで網羅することによりトータルのコストを抑える目的がある。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>①何について何をやる技術なのか？ ・コンクリートの配筋状態（被り、間隔）等を電磁波レーダを用いて検査し、その時のデータを専用アプリを介してクラウドで管理・共有できる。 ・測定データからその場所でのコンクリートの比誘電率を特定し、直ちに鉄筋の被り、間隔の値を求めることができる。</p> <p>②従来はどのような技術で対応していたのか？ ・電磁波レーダは、現場での測定データを改めてパソコンで解析して被り、間隔を求めて報告していた。 ・比誘電率を3段階に設定し、それぞれの結果からコンクリートの比誘電率を専用ソフトを用いて特定してから被りの値を求めていた。</p> <p>③公共工事のどこに適用できるのか？ ・コンクリートの配筋状態等の確認</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>・装置のコンパクト化で軽量 ・その場でカーブフィッティング法で比誘電率を求め、直ちに鉄筋の被り、間隔の値が算出できる。 ・測定結果を2D、3Dで表示できる。 ・専用アプリを介してクラウドで管理・共有できる。 ・狭隘な場所や曲面（例えば電柱）で測定できる。 ・比誘電率を求めるための測定が不要であり、測定回数が減少できる。 ・鉄筋位置の把握が容易となる。 ・関係者がリアルタイムでデータを共有できるので、測定結果の改ざん防止につながり迅速な評価や管理が期待できる。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>①適用可能な範囲 ・コンクリート内の鉄筋、電線、金属製及び非金属製の管、金属製及び非金属製の埋設物の位置の確認</p> <p>②特に効果の高い適用範囲 ・コンクリート重要構造物で品質評価、施工管理が必要な現場</p> <p>5. 活用実績</p> <p>民間9件（九州以外9台）</p>

6. 写真・図・表



波形以外でも2D、3Dの表示が可能



ARでの投影

